

まえがき風の駄文

本書は「とにかく人のオナニー事情を知りたい」という衝動から生まれた作品となります。

普段は音声作品の方で一人のオナニー事情について深掘りしていますが、今回はひとつのテーマに絞り、複数の方から文章で語っていただくというスタイルとなっております。

今回は「背德的だったオナニー」にスポットをあて、5名の女性に「あなたの人生で一番背德的だったオナニーについて聞かせてください」ともれもまた少なくないお金を払ってお願いし、ご回答いただいたものをまとめたものになります。

いただいた文章にはできるだけ手を加えず、誤字脱字や日本語的に意味が伝わりにくいもの、改行のみ編集し、極力原文のままを掲載しております。

そのため、一部読みづらかったり、変な日本語を使っている場合がございますが、それが「個性」であることをご理解いただけると幸いです。

もちろん、編集のくだらない妄想で変なスパイスを足すなんて愚かな行為はしておりません。

回答者の女性自らが紡いだ言葉で、自らの「背德的自慰行為」を表現していただきました。

あなたの知識欲を満たし、妄想のネタとなり、オナニーを捗らせる。

本書がその一助になることを願っています。

企画・編集・制作 沢尻

ケース① 行きずりの男性と

① プロファイル

名前	はな
年齢	当時二十五歳
職業	接客業
出身地	埼玉県
趣味	コスメ収集

② 報告内容

当時、25歳のときに大恋愛をした経験がありました。20歳のときからずっと大好きだった方で、ずっと片思いをしていました。

そんな彼とやっとな付き合えることになり、お付き合いしたのですが、結局半年後に彼にふられてしまいました。そのとき、結構荒れてしまい、友達と飲みに出かけたところで知り合った男性とそのままホテルに行ったりな

りと、今思えばひどかったとおもいます。

その中の一人である男性の前でしたオナニーがすごい背德的でした。

その日は一人で飲みたい気分だったので、駅近くのビルの地下に入っているバーへと一人でいきました。

そのとき、カウンターに男性が一人おり、私が飲んでいると話しかけてきたのです。

「おひとりですか？」とサラリーマン風の男性でイケメンでした。

「はい……」と言うと隣に座ってきて、そのまま会話をしました。とても優しい雰囲気の方でその方が奢ってくれるというので、結構高いお酒を飲んだりして羽目を外してしまっただけです。

その後バーから出るとホテルに誘われ、そのままホテルに付いて行ってしまいました。

二人とも酔っていたのもあって、本能のまま求め合うような激しいセックスをしました。

そして、そのあとに彼からオナニーしてるところが見たいと言われたんです。

私はセックスの時にイってなかったので、興奮状態が続いていたということもあり、両足を広げて彼にあそこを見せました。

そして指でクリをいじったり、中に指を入れたりして激しくオナニーをしました。彼もだんだんと興奮してきて、彼もオナニーをはじめました。

二人でオナニーの見せ合いっこみたいな状態に……。

どんどん大きくなる彼のものにも興奮して、より激しくクリをいじりました。

すごく気持ちよかったです、すごい罪悪感というか、背德的な感情が入り乱れて、不思議な感覚でした。

頭と体が違うようなかんじです。

彼の前にそのままイって、大きくなった彼のものはフェラでイかせてあげました。

オナニーって秘め事だとおもうので、会って数時間の男性に見せるって今考えればとても背德的です……。

③ 当時を振り返った感想

たぶんもう二度と人にオナニーは見せることはありません……。でも興奮するんです。不思議です。